

イスラエルによるイランへの先制攻撃に断固抗議し、 無法な武力攻撃の中止を求める

2025 年 6 月 13 日 日本平和委員会

- 一、イスラエル政府は6月13日、「イランの核プログラムに対する先制攻撃を実施した」と発表し、数十機の空軍機がイランの複数地域にある核関連施設を含む数十カ所の目標を空爆したとしている。イラン国営テレビはこの攻撃で女性や子どもも含む死傷者が出ていること、ウラン濃縮施設も攻撃を受け、革命防衛隊司令官が死亡したとしている。
- 一、このような先制攻撃は、いかなる理由をもってしても許されない国連憲章と国際法違反の蛮行であり、私たちは断固として抗議する。私たちはイランの核開発の動きに反対するものだが、それはあくまでも平和的交渉によって解決すべきである。しかも、この問題は国際原子力機関（IAEA）を含む枠組みの下で協議が行われている最中であり、攻撃は二重三重に許されない。
- 一、私たちは、イスラエルに対し、無法な武力攻撃をただちに中止することを求めるものである。イランも情勢を悪化させる報復を慎むことを求める。関係国は直ちに話し合いのテーブルに着き、中東非核地帯条約の締結など、中東を非核平和の方向へ向かわせる立場での、平和的解決のために全力を挙げるべきである。
- 一、そもそもイスラエル自身が事実上の核保有国とみなされ、これを背景にパレスチナ・ガザでのジェノサイドを繰り返すなど、この地域での緊張を激化させる最大の要因になっている。その自らの責任を棚に上げ、「俺は核兵器を持つがお前は開発するな」との立場から他国を武力攻撃するなど、断じて許すことはできない。私たちは国際社会に対し、こうしたイスラエルによる国連憲章と国際法を無視した蛮行を止めさせるために、必要な制裁措置を含む一致した行動をとることを強く求めるものである。